



FUKUOKA
PREFECTURAL
POLICE 2021



警察を支える情報システムを作る

情報処理技術でデータを価値あるものに

Profile

警務部 警務課 企画調整係

令和2年採用警察行政職員(情報処理)

九州工業大学 情報工学部 知能情報工学科 卒業

やりがい

福岡県警察では使用しているシステムの多くを自主開発しています。

共に働く警察官、警察行政職員が利用者になるということもあり、携わったシステムに関する声がダイレクトに聞こえてくるので、今まで以上にシステム開発へのやりがいを感じることができています。



職場環境

警務部警務課で働く警察行政職員（情報処理）は、民間企業からの転職組が多数在籍しています。

そのため悩み事や不安等は、上司・先輩からの体験談を踏まえた適切なアドバイスのおかげで、解決することが出来ます。

連帯感があり仕事に取組みやすい環境がとても整っています。

印象に残ったエピソード

私は現在、警務課で業務の合理化・効率化を目的としたWebシステムの開発を行っています。

他の企業等であれば大勢の技術者で1つのシステムを開発しますが、福岡県警察では基本的に2人1組のペアを作り、3ペア6名の少数精鋭でシステムを開発しています。

福岡県警察職員の約1万2千人が利用する勤務管理のシステムは、労務に関する法律や条例など様々な仕組みをシステム上で実現するため、法律自体の深い知識も必要とされます。そのような専門的なシステムであっても専任の担当者に任せるのではなく、係全員がいつでも対応できるようにお互いの知識を共有し、協力しあっている環境に感銘を受けました。

きっかけ

東京のIT企業でシステムエンジニアとして働いていましたが、福岡に戻ってくるようになった際、「生まれ育った福岡のためになる仕事が出来ないだろうか」と思っていました。

そんな時に警察行政職員（情報処理）という仕事を知り、これまで培った経験を活かして県民の安全・安心を守る仕事に携わりたいと思い、警察行政職員（情報処理）の採用選考試験を受験しました。



警察学校での生活

警察学校では情報処理選考に限らず、他の警察行政職員と1つのクラスとして集団生活を行います。

同期生の多くは新卒採用であり、転職してきた私とは年齢が一回り離れていました。

最初は上手くやっていけるのだろうかと不安を感じていましたが、寝食を共にし、互いに協力し合って集団生活をしていく中で、同期生として年齢を超えて打ち解けることができ、しっかりとした「絆」ができました。



メッセージ

私は民間企業での仕事の経験があったため、警察学校に入校しての教養や、配属後の仕事の進め方など戸惑いを感じる事が多くありました。しかしそれ以上に、同期生との「絆」や、自身のスキルアップ等得られる事が多く、とてもやりがいを感じています。

人のために働きたい方、スキルを活かしたい方など少しでも興味のある方、一緒に働ける日を楽しみにしています。

